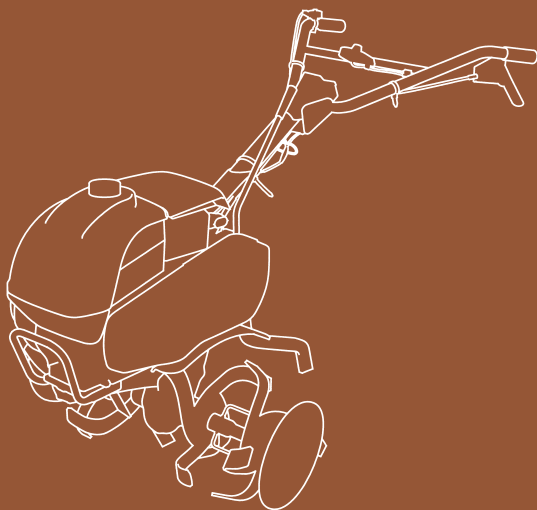




耕うん機

F402

取扱説明書



ECOLOGY CONSCIOUS TECHNOLOGY

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。

お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただきました販売店にお気軽にお申しつけください。

一般公道での走行はできません。

(本機は小型特殊自動車の認定を受けていません。)

夜間作業はできません。

(本機は作業灯が装備されていません。)

取扱説明書について

この取扱説明書は

- ・作業をするときは、必ず携帯してください。
- ・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡してください。
- ・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。



ECOLOGY CONSCIOUS TECHNOLOGY

e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。



本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。

本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の実操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠ 危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠ 警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠ 注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

本書はF402Jタイプを中心に説明してあります。

目次

安全にお使いいただくためにこれだけは必ず守りましょう	4
安全ラベル	9
サービスと保証について	11
各部の名称と取扱いをおぼえましょう	12
各部の名称[Jタイプ]	12
各部の名称[JAタイプ]	14
エンジンスイッチ	16
エンジン回転調整レバー	16
主クラッチレバー	17
変速レバー	17
始動グリップ	18
チョークレバー	18
燃料コックレバー	19
ハンドル固定レバー[Jタイプ]	19
ハンドル固定レバー[JAタイプ]	20
ヒッチボックス(作業機取付け部)	21
ドラッグバー(抵抗棒)[Jタイプ]	21
作業前に点検・調整しましょう	22
作業前の点検	22
燃料の点検	23
エンジンオイルの点検	25
エアクリーナ(空気清浄器)の点検	27
変速機オイルの点検	28
タイヤ空気圧の点検[JAタイプ]	29
泥水カバーの点検、清掃[JAタイプ]	30
ハンドルの位置調整	31
ドラッグバー(抵抗棒)の調節[Jタイプ]	33
車輪の取外し、取付け[JAタイプ]	34
主クラッチレバーの作動(点検・清掃)	35

エンジンのかけかた	37
運転操作のしかた	41
変速	41
変速レバー	41
運転	43
主クラッチレバー	43
エンジン回転調整レバー	44
エンジンのとめかた	45
定期点検を行いましょう	48
点検・整備のしかた	49
エンジンオイルの交換	49
エアクリーナ(空気清浄器)の清掃・交換	51
点火プラグの点検・調整・交換	53
エンジン回転調整ケーブルの調整	54
燃料ろ過カップの清掃	55
長期間使用しない時の手入れ	56
故障のときは	58
主要諸元	59
同梱部品の組付け方	60

安全にお使いいただくためにこれだけは必ず守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 妊娠中の人、飲酒した人、過労、病気、薬物の影響で正常な運転ができない人は本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 作業をするときの服装は、作業帽などをかぶり、滑り止めのついた作業に適した靴をはいて、きちんと身体にあったものを着用してください。
- 裸足や爪先が開いている靴やサンダルで操作をしたり、だぶついた服や巻きタオル、腰タオルなどは動いている部品に引っかかるなど、思わぬ事故を起こすことがあります。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 作業前の点検や定期点検を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、大ケガをすることがあります。
- 点検作業は、通行の妨害にならないような場所及び平坦で安全な場所で行ってください。
- 本機、作業機を吊り上げて点検する場合は、必ず落下防止の措置をとってください。
- 作業機の取付けは平坦で安全な場所で行ってください。
- 作業内容に適した推奨作業機を使用し推奨以外の作業機は使用しないでください。思わぬ事故の原因となりケガをするおそれがあります。
- 作業内容に適した作業機は、お買いあげいただいた販売店にご相談ください。

警告

- 作業機を使用する前には、作業機の取扱説明書をよくお読みください。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- 本機や作業機の改造は絶対にしないでください。また、指定部品以外は使用しないでください。
適性な性能や機能を発揮なくなり、思わぬ事故をまねきケガをするおそれがあります。
- 屋内でエンジンをかける場合には換気に十分注意してください。換気が悪いと有害な一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

●作業中

- ほ場に人やペットを近づけないでください。特に子供には注意して、子供がほ場に入ったときにはエンジンスイッチを切ってください。思わぬ事故を引き起こし、ケガをするおそれがあります。
- 傾斜地での作業は、本機の落下や巻き込まれ、転倒等による事故のおそれがあります。やむを得ず傾斜地で作業する場合は、必ず作業前に本機が安全に使用できるか確認し、十分注意して作業を行ってください。
 - ・ 急な傾斜地では作業はしないでください。傾斜角度が大きいほど、事故が起きやすくなります。また、使用される作業機や作業内容、ほ場の状態により、安全に使用できる傾斜角度は小さくなります。
 - ・ 傾斜地での作業は、上下方向よりも、なるべく横方向(等高線方向)に行うようにしてください。上下方向の作業は、本機が滑り落ちて来たり、運転者の足元が滑って本機に巻き込まれたりしてケガをするおそれがあります。
 - ・ 傾斜地での旋回は転倒事故のおそれがあるので、速度を十分におとし、周囲に注意してサイドクラッチを使用しないで、ハンドル操作で行ってください。

警告

- ・傾斜地では必要以上に速度を上げないでください。速度が速すぎるとバランスを崩しやすく転倒してケガをするおそれがあります。
- ・傾斜地では本機がかたむき、燃料がにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。
- ほ場への出入り、急傾斜、溝または畦の横断を行うときは、必ず2人以上で本機を持ち上げて行ってください。1人で行うとケガをするおそれがあります。
 - ・ほ場の状況を十分に把握し、周りに注意して行ってください。
 - ・軟弱地の通過は、変速レバーを最低速にし、エンジン回転を下げ、低速で行ってください。転倒しケガをするおそれがあります。
- 車輪装備時は、ほ場への出入り、溝または畦の横断、軟弱地の通過などは、変速レバーを最低速にし、エンジン回転を下げ、低速で行ってください。転倒しケガをするおそれがあります。
 - ・急傾斜、溝または畦超えを行うときは、アユミ板等を使用して、上りは前進、下りは後進で行ってください。本機を落下させたり、車軸部に過大な力をかけると本機を破損するばかりでなくケガをするおそれがあります。
- 作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行ってください。
- 休憩などで本機を離れる場合はエンジンを止めて安定した場所に置いてください。
- 爪(ロータ)は鋭く尖っていて、高速で回転します。間違って接触すると死傷事故を起こすおそれがあります。
 - ・エンジンがかかっているときは、絶対に手や足を爪に近づけないでください。
 - ・作業中に爪を点検するときは、必ずエンジンを停止し、不意に始動しないように、点火プラグキャップを外して行ってください。また、手を保護するために厚手の手袋をしてください。

警告

- 回転している爪に異物が当たると、非常に強い力でとび散りそれにより大ケガをするおそれがあります。
 - ・ 作業の前には場から棒、大きな石、針金、ガラス等を取除いてください。
 - ・ 作業中異物に当たったときはすぐにエンジンを止め、点火プラグキャップを外し、注意して損傷を調べてください。損傷したまま再始動すると思わぬ事故になり、ケガをするおそれがあります。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
 - ・ 燃料を補給するときや燃料タンクの付近ではタバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。
 - ・ 燃料はこぼさないように注意し、所定のレベル(給油限界位置)を超えないように補給してください。燃料給油キャップを確実に締め、もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。
 - ・ ふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や囲いのある場所で作業を行うときは、排気ガスが蓄積しないように、適切な換気をしてください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。
- 旋回するときは、エンジン回転を下げ、周囲や足元に十分注意し、人や障害物がないことを確認して余裕をもって行ってください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

警告

●作業が終わったら

- 次の作業のために本機の点検、整備を行ってください。
- 作業機の取外しは、平坦で安全な場所で行ってください。
- エンジン上部に物をのせないでください。
- 停止後のエンジンとマフラ(消音器)は非常に熱くなっています。特にマフラは熱くなっているため、手で触れたりポリタンク等をのせないでください。やけどをしたり、変形や漏れなどが発生する場合があります。
- ボディカバー等をかける場合は、エンジンが冷えてから行ってください。火災を引き起こすおそれがあります。

●積み降ろしおよび運搬時

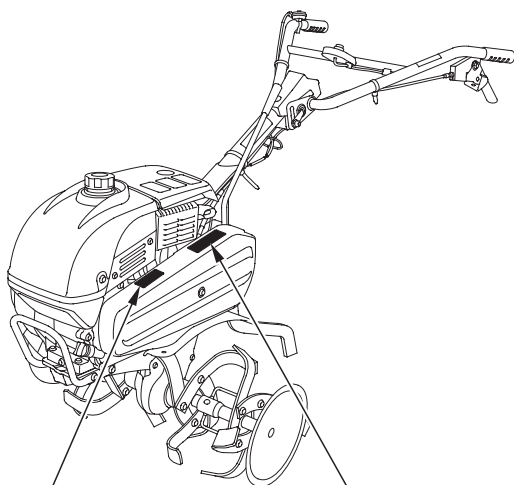
- 本機をトラック等へ積み降ろしするときや、運搬をするときは次の指示に従ってください。守らないと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
 - ・ 荷台から本機、作業機がはみ出さない車を使用してください。
 - ・ 積み降ろしは、平坦な場所で行ってください。
 - ・ 積載する車は、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、変速レバーを低速に入れて確実に動かないようにしてください。
 - ・ 荷台に載せた本機は水平にして、丈夫なロープで確実に固定してください。
 - ・ 運搬時本機の燃料タンクおよびキャブレターの燃料を抜いてください。
 - ・ 必ず2人以上で持って、車の荷台に載せてください。
- 車輪装備時の積み降ろしでは、以下の指示にも従ってください。
 - ・ 使用するアユミ板は、本機、作業機の重量に耐えられるもので、滑り止め、外れ防止のフックのあるタイヤ幅以上の幅があるものを使用してください。
 - ・ アユミ板の傾斜角度が15度以下になるような長さのものを使用してください。(目安として荷台の高さの4倍以上の長さ)
 - ・ アユミ板は車に対しまっすぐ、平行にしっかりかけてください。
 - ・ 積み込みは前進で、降ろすときは後進で行ってください。
 - ・ アユミ板に乗る前に、タイヤとアユミ板が一直線であることを確認してください。

安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。

ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。

本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。



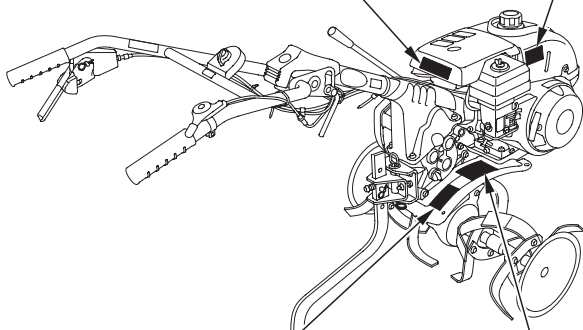
注 意	
	手や衣服が巻き込まれるので カバー類を外してエンジンを 運転しないこと。

警 告	
	排気ガスによる中毒 のおそれがあるので、 換気の悪い所で使用 しないこと。

注 意	
	ヤケドをする のでマフラーに ふれないこと。

	警告 死傷事故防止のため、下記及び取扱説明書を読み、理解して正しく取り扱うこと。 ● 急発進防止のためエンジン始動時は、主クラッチを切ること。 ● 点検整備時はエンジンを停止すること。
---	--

	警告 火災や爆発により死傷するおそれがあるので、 ● 給油時にはエンジンを停止すること ● 給油口に火を近づけないこと。
---	--



	危険 回転している爪にふれると死傷することがあるので、回転している爪に近づかないこと。
---	--

	警告 後進時、ハンドルがはね上がり爪に触れると、死傷するおそれがあるので、 ● 後方に人や障害物がないことを確認すること。 ● 車速を最低にしてエンジン回転数を下げること。 ● ハンドルをしっかりとさえること。 ● クラッチはゆっくりつなぎ、いつでも切れる様にする。
---	---

サービスと保証について

お買いあげいただきました商品について、ご使用中の故障やご不明な点またサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店にお申しつけください。

ご利用の際は商品名とフレーム号機をご連絡くださるようお願いいたします。



※ フレーム号機および銘板の表示
位置は13、15頁をご覧ください。
(参考:左の銘板はF402-Jタイプの物です)

本機の改造や、仕様の限度を超える使用は保証の対象外になるのでご注意ください。(詳細は保証書をご覧ください。)

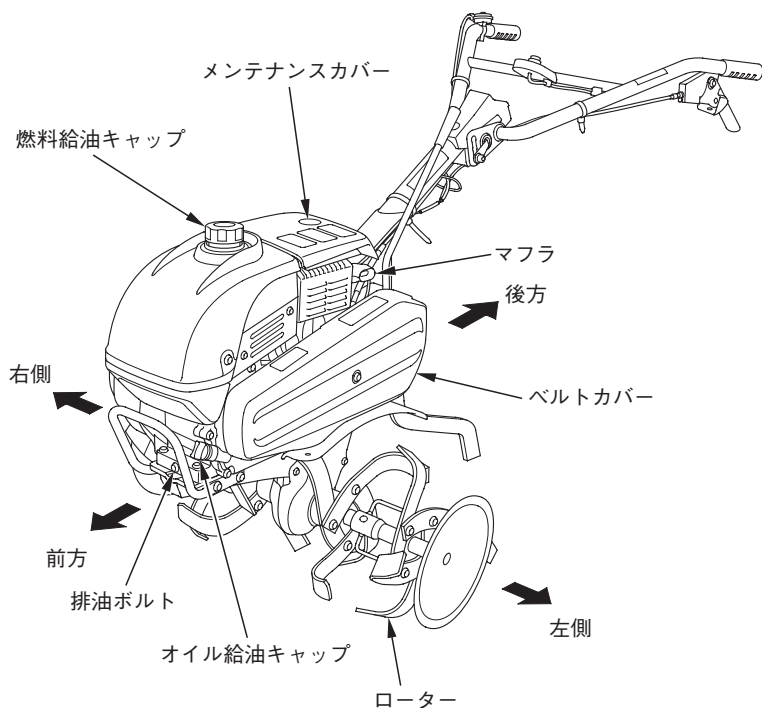
認定番号

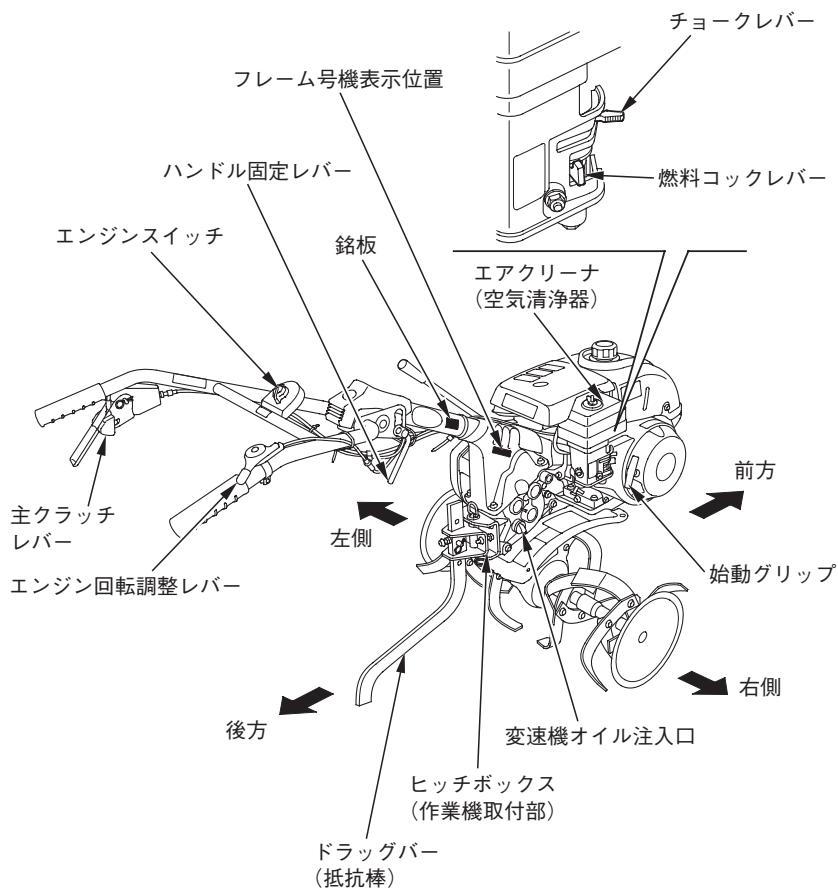
安全鑑定適合番号が必要な場合は下記の番号をご使用ください。

型式名	安全鑑定適合番号
ホンダF402	31095

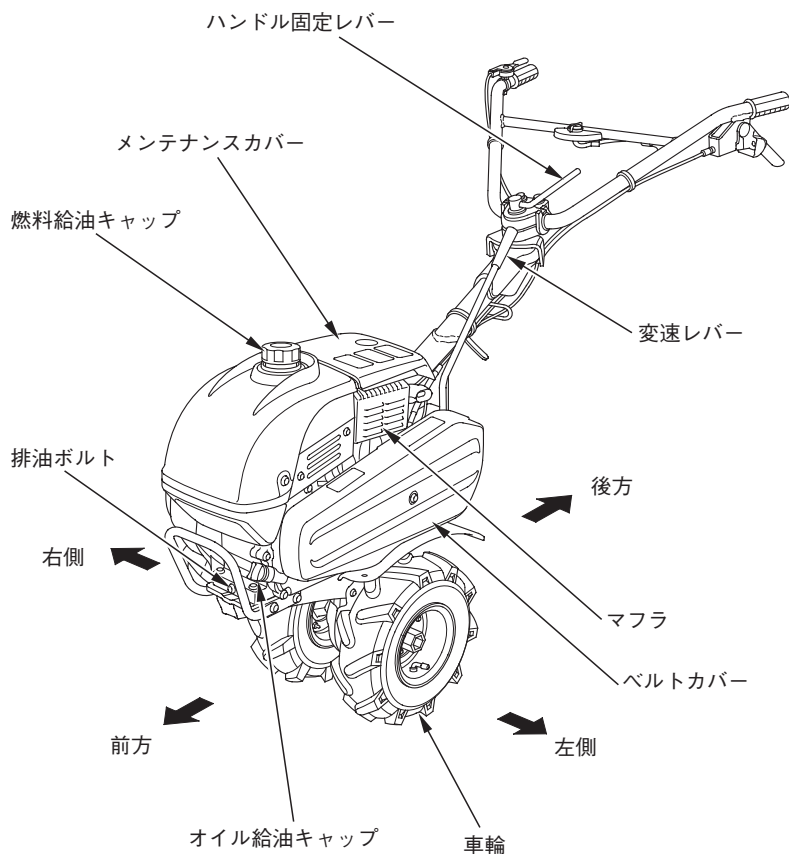
各部の名称と取扱いをおぼえましょう

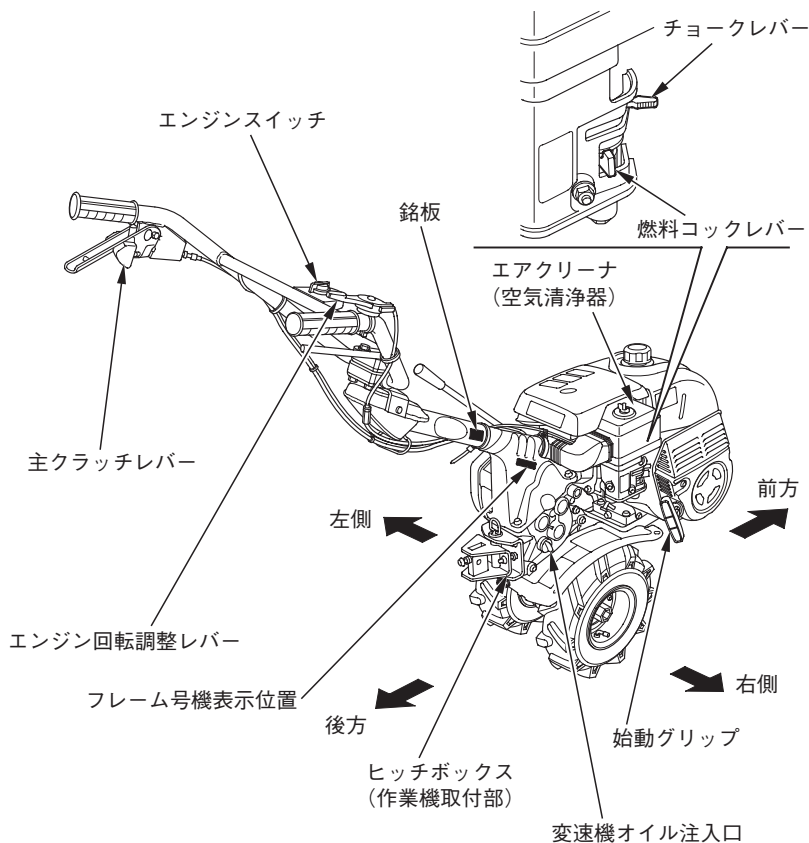
各部の名称 [Jタイプ]





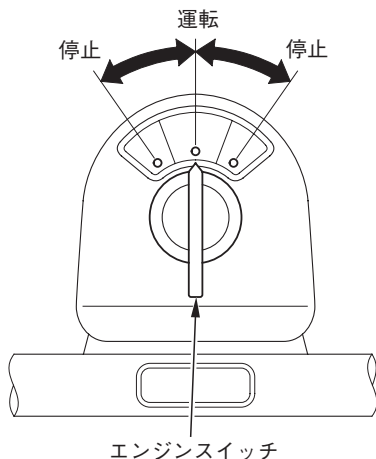
各部の名称 [JAタイプ]





エンジンスイッチ

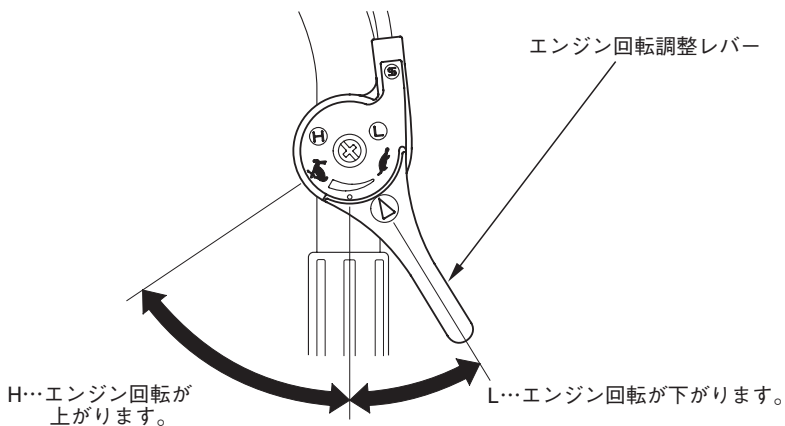
エンジンスイッチは、エンジンの運転、停止をするときに操作します。



エンジン回転調整レバー

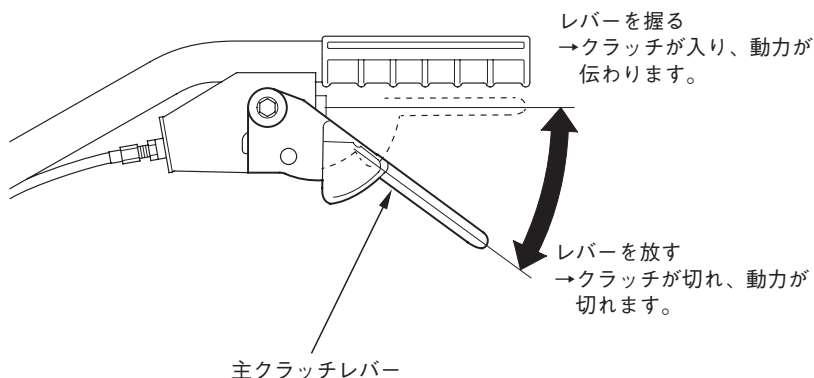
エンジンの回転を調整するものです。

エンジンの始動、運転中、停止時に操作します。



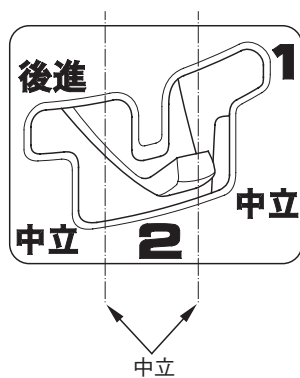
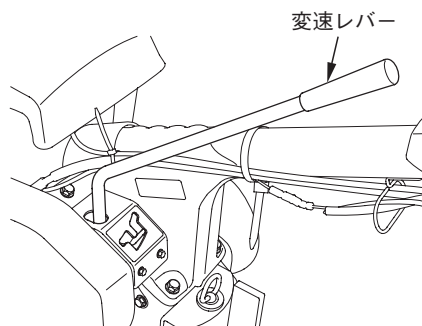
主クラッチレバー

主クラッチは、車軸への動力を断接する装置です。



変速レバー

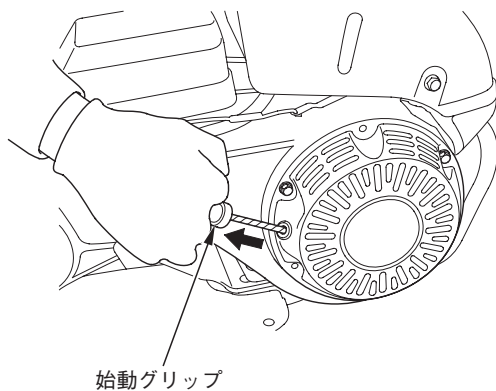
本機の速度を変えるときに操作します。



変速は前進 2 段、後進 1 段です。

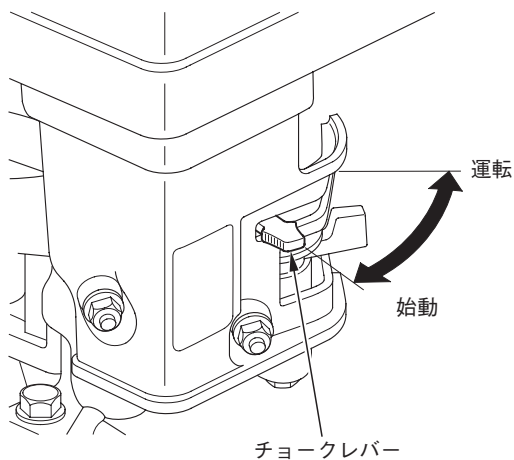
始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



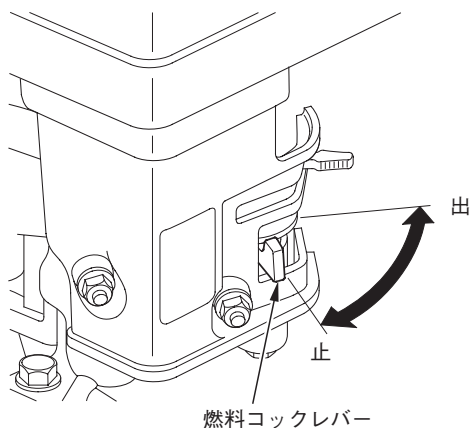
チョークレバー

エンジンが冷えているとき、またエンジンがかかりにくいときに操作します。



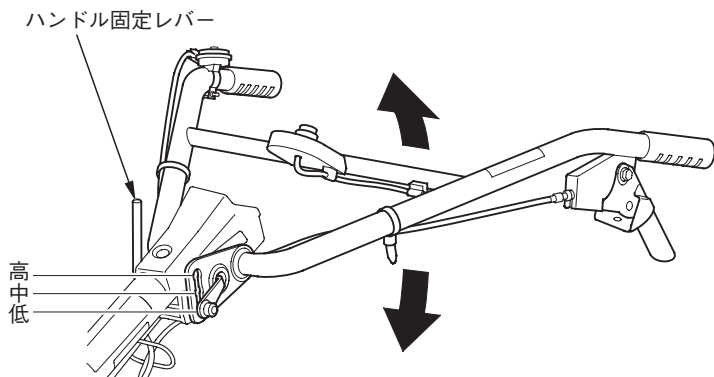
燃料コックレバー

燃料コックレバーは、タンクの燃料を出したり止めたりするときに操作します。



ハンドル固定レバー[Jタイプ]

ハンドルの高さを、作業内容や運転者の身長に合わせるレバーです。
(調整は31頁参照)

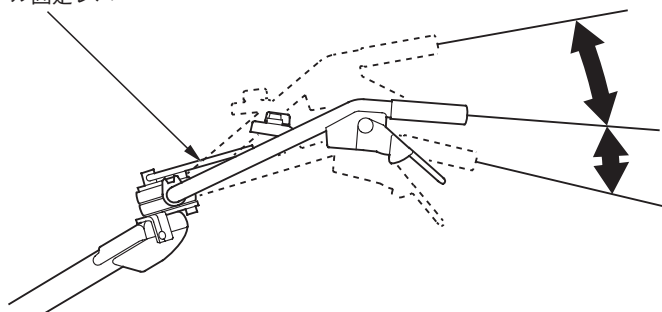


ハンドル固定レバー [JAタイプ]

ハンドルの高さ、向きを調整するときに操作します。(調整は31、32 頁参照)

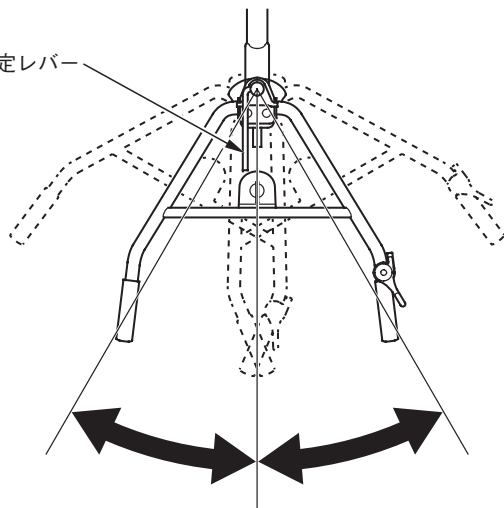
• ハンドルの高さ調整

ハンドル固定レバー



• ハンドルの向き調整

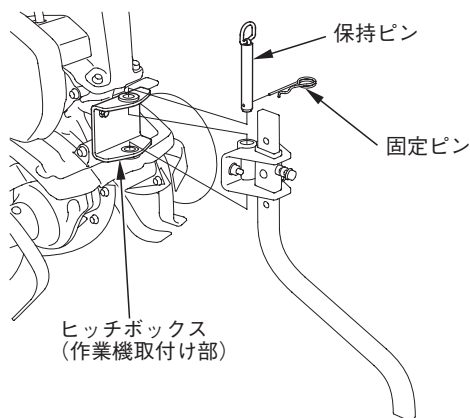
ハンドル固定レバー



ヒッチボックス(作業機取付け部)

作業機を取付けるところです。

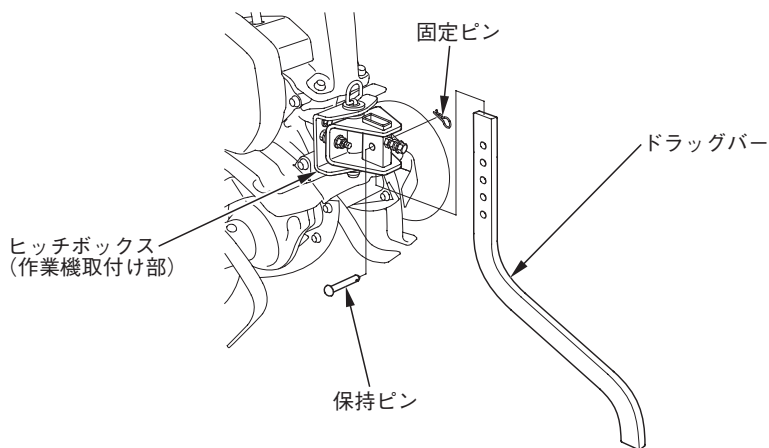
取付けは、保持ピンを差し込みます。保持ピンは固定ピンで固定します。



ドラッグバー(抵抗棒)[Jタイプ]

耕うん深さを調節するとき、ドラッグバーを上下させて調節します。

(調整は33頁参照)



作業前に点検・調整しましょう

⚠ 警告

点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを止めて行ってください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- 本機のまわり……………燃料の量(23、24頁参照)、オイルの量(25頁参照)は規定量入っていますか。
燃料の漏れ、オイルの漏れはないですか。
エンジン廻りのゴミ、ワラ等の付着はないですか。
泥水カバー内に草や泥などのつまりはないですか。(JAタイプ、30頁参照)
- レバーの作動……………レバーの遊び量(54頁参照)は規定どおりですか。
引っかかりはないですか。
スムーズに作動しますか。
- タイヤ空気圧……………タイヤの空気圧は適正ですか。(JAタイプ、29頁参照)
- 各部の締付け……………ハンドル高さ調整レバーにゆるみ、がたはないですか。
ボルト、ナットにゆるみはないですか。
- 配線、ケーブル類……………被覆のやぶれ、切れはないですか。
配線、ケーブルのはさまりはないですか。
- エンジンの始動、停止…エンジン始動し、異音はないですか。(始動手順は37～40頁参照)
エンジンスイッチで確実に停止しますか。
(停止手順は45～47頁参照)
- その他異常を感じたら直ちにお買いあげ販売店へお申しつけください。

燃料の点検

⚠ 警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

ガソリンを補給するときは

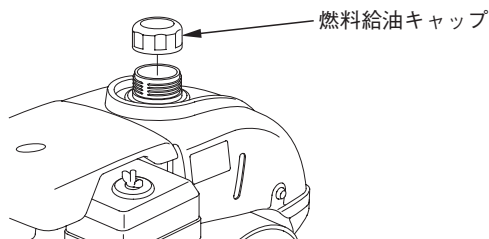
- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを、負うおそれがあります。

本機や給油機などの金属部分に手を触れると、静電気を放電することができます。

- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは布きれなどで完全にふき取ってください。ガソリンをふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- ガソリンは注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎると燃料給油キャップからガソリンがにじみ出ることがあります。
- 傾斜地では本機がかたむきガソリンがにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

点検

本機を水平にし燃料給油キャップを外し、燃料の量を点検します。少ない場合は補給してください。



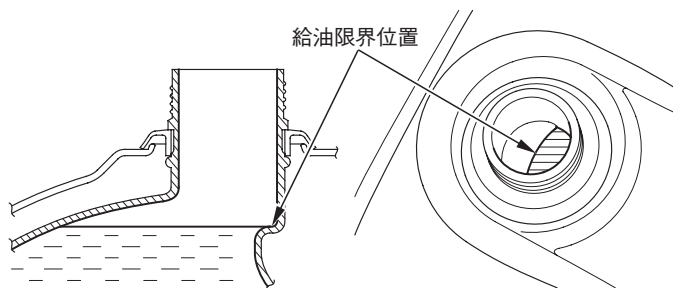
補給

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

- 燃料給油キャップを外し、給油口の給油限界位置を超えないように補給してください。
- 給油限界位置以上では本機が傾斜したときに燃料給油キャップからガソリンが漏れることがあります。
- 燃料給油キャップは補給後完全にはめ込み右方向に止まるまでいっぱいになわしてください。

取扱いのポイント

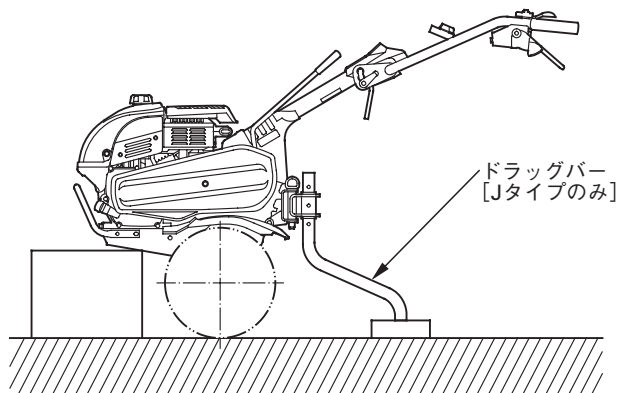
- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
- ガソリンは自然に劣化しますので30日に1回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。



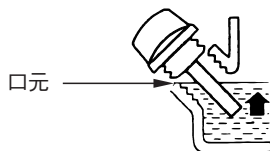
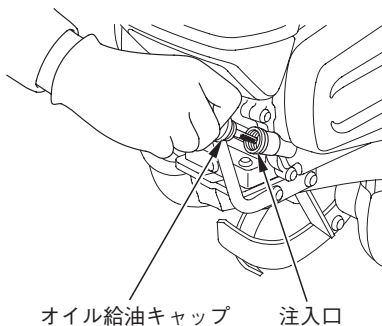
エンジンオイルの点検

点検

エンジンを停止し、平坦な場所で、図のようにフロントフレーム下部に適切な台を、またドラッグバーの下に木片等を置き、本機を水平にします。



オイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあることを確認します。



補給

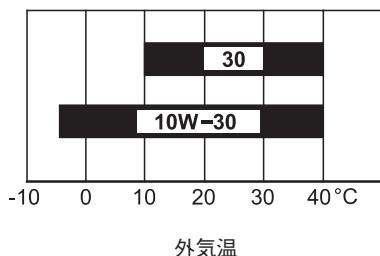
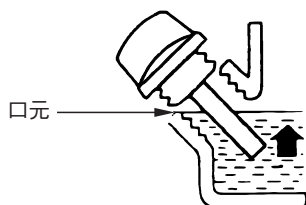
- 少ないときは新しいオイルを口元まで補給します。
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換は49、50 頁参照)
補給後、オイル給油キャップを確実に締付けてください。
- 推奨オイル

Honda純正ウルトラU汎用 (SAE 10W-30)、

またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。

エンジンオイル量： 0.56 L

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度
のものを表にもとづきお使いください。



取扱いのポイント

エンジンオイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

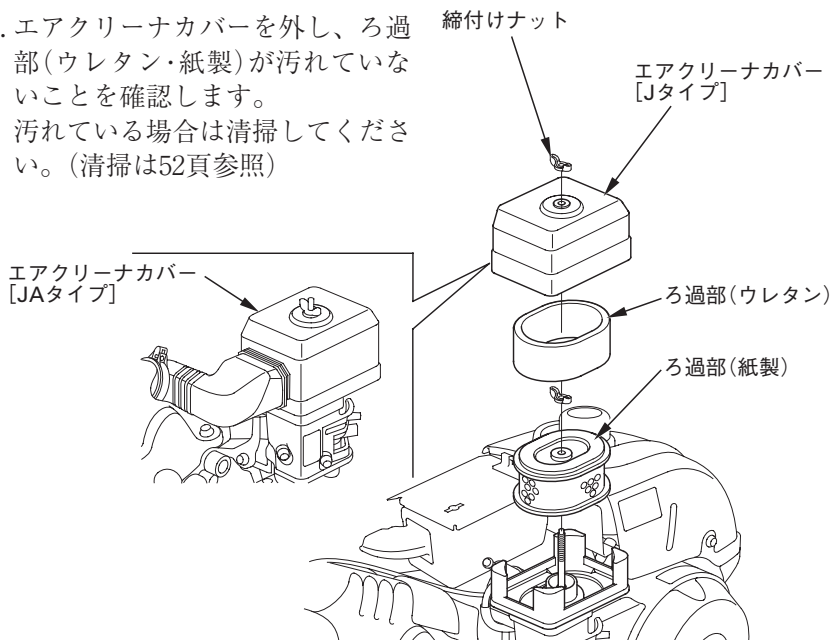
エアクリーナ(空気清浄器)の点検

1. メンテナンスカバーを取外します。

(51頁参照)

2. エアクリーナカバーを外し、ろ過部(ウレタン・紙製)が汚れていないことを確認します。

汚れている場合は清掃してください。(清掃は52頁参照)



3. エアクリーナの点検後、メンテナンスカバーを取外しの逆手順で取付けます。

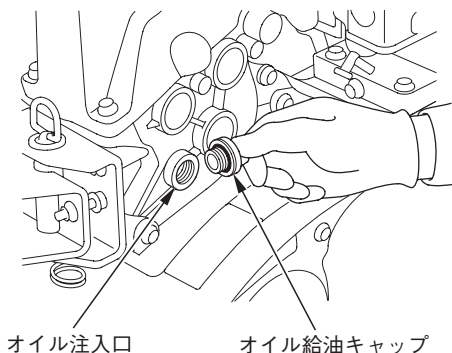
取扱いのポイント

- エアクリーナカバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エアクリーナカバーやろ過部(紙製)を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

変速機オイルの点検

点検

エンジンを水平にしオイル給油キャップを外し、口元までオイルがあるか点検します。少ない場合は補給してください。

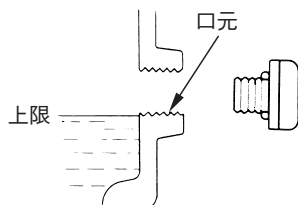


補給

《推奨オイル》 Honda純正ウルトラU汎用(SAE 10W-30)、
またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用
ください。

変速機オイル量：0.95 L

- オイル給油キャップを外し、口元まで補給してください。
- 補給後、キャップは確実に締付けてください。



取扱いのポイント

エンジンオイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

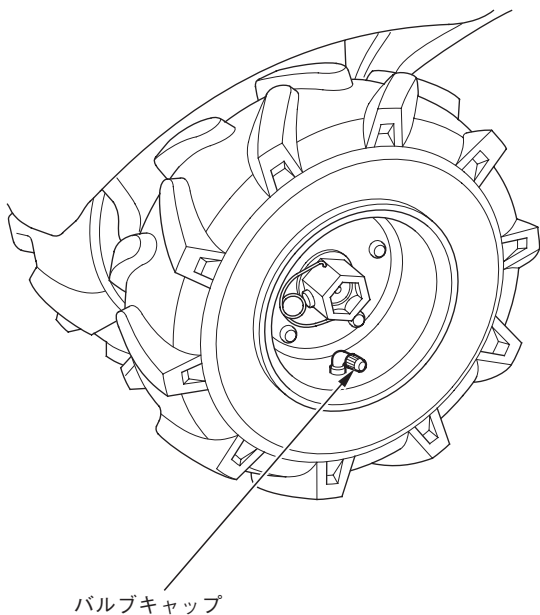
タイヤ空気圧の点検 [JAタイプ]

バルブキャップを外しタイヤの空気圧を点検します。

空気圧が正規でない場合は、必ず正規の空気圧に調整してください。

タイヤサイズ：3.50-5

タイヤ空気圧：108-127 kPa (1.1-1.3 kgf/cm²)



泥水カバーの点検、清掃 [JAタイプ]

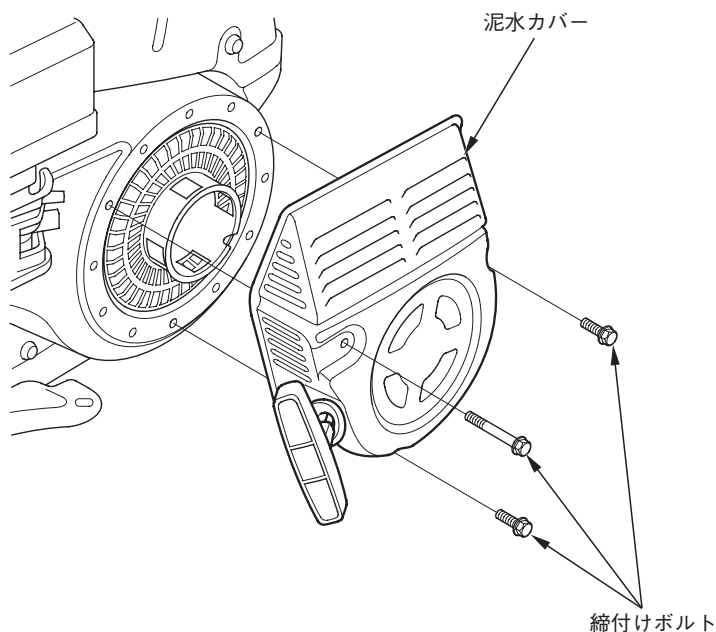
点検

泥水カバーの上部より目視にて確認します。草や土が入っていたり、泥水が入った場合は清掃してください。

泥水カバー内に草や土が入っていると冷却風の不足でオーバーヒートの原因となる場合がありますので必ず清掃を行ってください。

清掃

1. 締付けボルト 3 本を外し泥水カバーをを外します。
2. 泥水カバー内の草や泥を取除きます。
3. 清掃後、元の位置にセットし、締付けボルトを確実に締付けてください。



ハンドルの位置調整

ハンドルの高さや向きを作業内容や運転者の身長に合わせて調整します。

⚠注意

- 調整後、ハンドル固定レバーを確実に締付けてください。締付けがゆるいと作業中ハンドルが不意に動き思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 調整はエンジンを停止して行ってください。

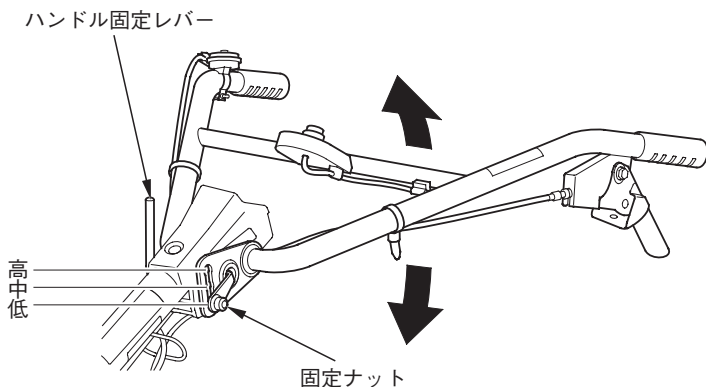
調整のしかた

取扱いのポイント

ハンドルを調整するときは、本機を平坦な場所に置いて行ってください。

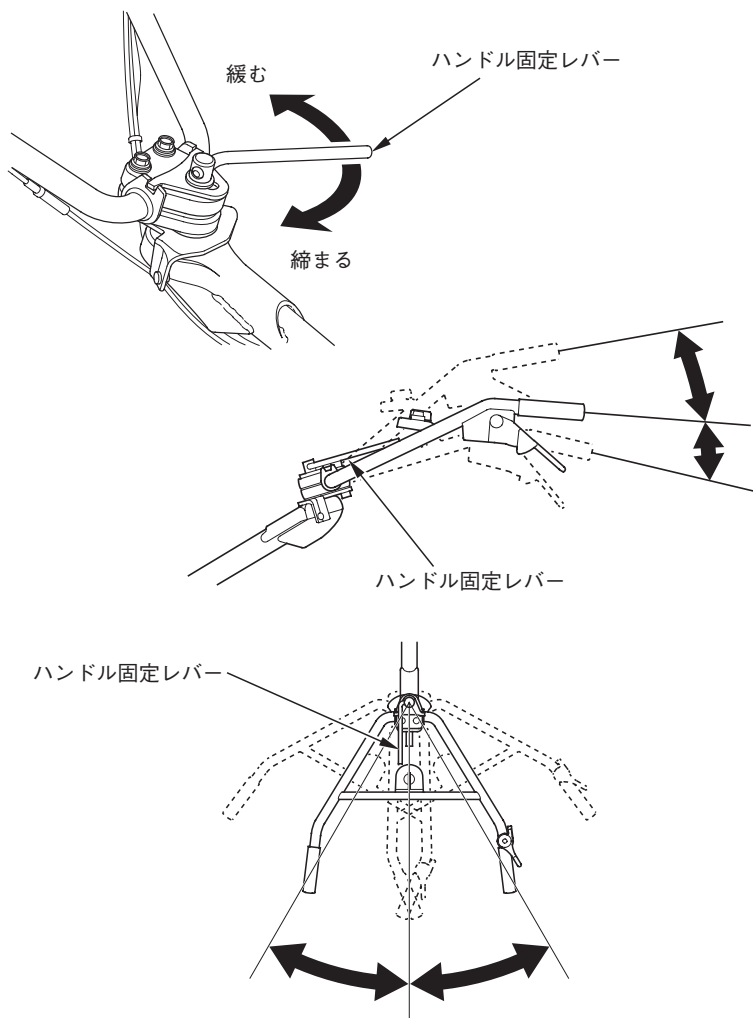
[Jタイプ]

- ハンドル固定レバーを緩め、ハンドルを上下に移動し高さを調整します。
- 固定ナットをセットし、ハンドル固定レバーを確実に締付けます。
固定ナット、ハンドル固定レバーは高、中、低のいずれかの位置に確実に合わせてください。



[JAタイプ]

1. ハンドル固定レバーを緩め、ハンドルを上下、左右に移動し高さ、向きを調整します。
2. ハンドル固定レバーを確実に締付けます。

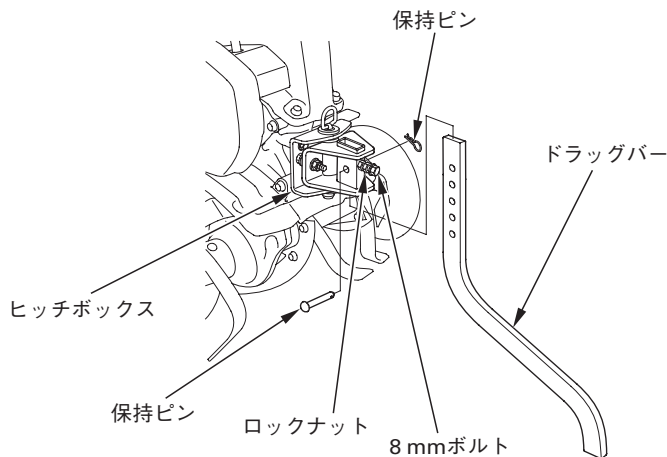


ドラッグバー(抵抗棒)の調節[Jタイプ]

耕うん深さを調節するとき、ドラッグバーを上下させて調節します。

調節

1. ロックナットをゆるめ、8 mmボルトをゆるめます。
2. 固定ピンを外して保持ピンを抜き、ドラッグバーを任意の穴位置に合わせて、保持ピンを差込み固定ピンで固定します。
3. 8 mmボルトを締付けロックナットで固定します。



車輪の取外し、取付け[JAタイプ]

取外し

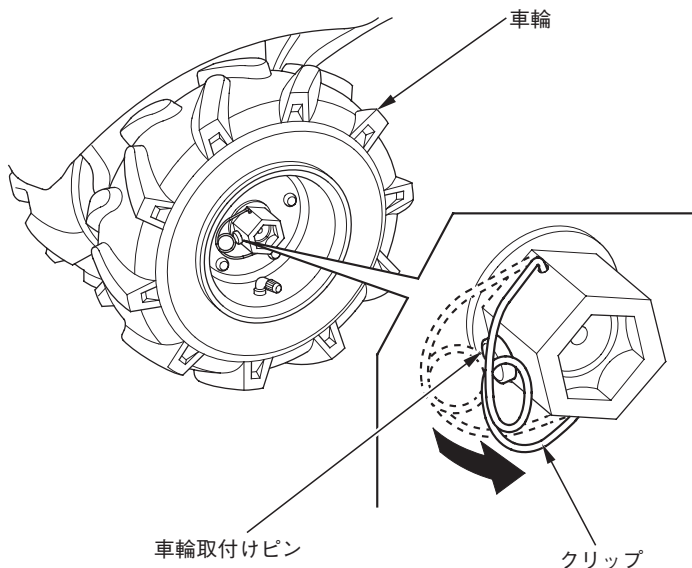
クリップを手前に外し、車輪取付けピンを外し、車輪を取外します。

取付け

車輪を取付け、車輪取付けピンを取付け、クリップで固定します。車輪取付けピンが抜けないように、クリップを確実にセットしてください。

取扱いのポイント

本機を横倒しにしないでください。ガソリンやオイルがこぼれたり、始動性が悪くなったり、始動後に白煙が発生したりすることがあります。



主クラッチレバーの作動(点検・清掃)

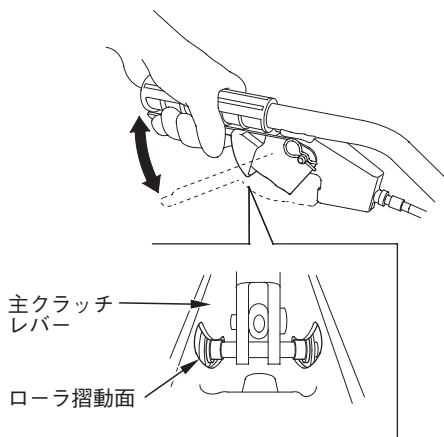
点検

- 主クラッチレバーがスムーズに動くことを確認します。
- 主クラッチレバーのローラ摺動面に異物(ゴミ、砂、土、小枝など)がないことを確認します。

スムーズに動かない場合、異物がある場合は、清掃してください。(清掃方法は36頁参照)

取扱いのポイント

オイル、洗剤などを塗布したり吹付けしないでください。オイル、洗剤などに異物が付着することがあります。



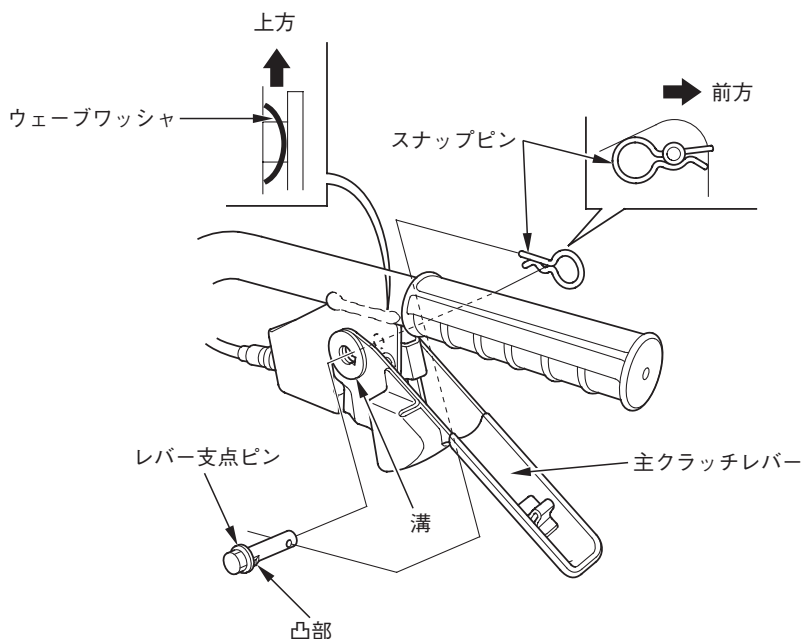
清掃

「レバーのローラ摺動面清掃」「異物の除去」は、主クラッチレバーを取外して行います。(作業手順は36頁参照)

取扱いのポイント

主クラッチレバーの取外し時、ウェーブワッシャの落下に注意してください。ウェーブワッシャは、主クラッチレバー右側と取付け部との間にあります。

1. スナップピンをレバー支点ピンから引抜きます。
2. 主クラッチレバーを保持しながら、レバー支点ピンを抜取ります。
主クラッチレバーとウェーブワッシャを取外します。
3. 異物がある場合、取除きます。
主クラッチレバーのローラ摺動面の汚れをウエス等で拭取ります。
4. ウェーブワッシャの表裏と方向を図のようにします。この状態で主クラッチレバーを取付部に合わせて、レバー支点ピンを差込みます。
5. レバー支点ピンの凸部を主クラッチレバーの溝に合わせ、スナップピンを図の向きに差込みます。



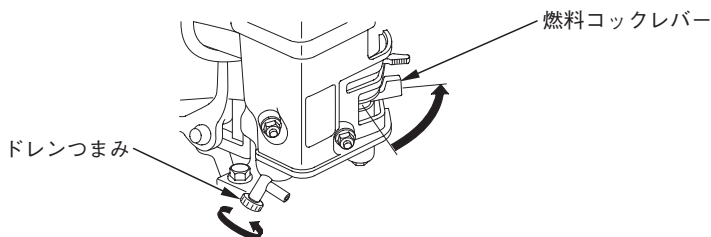
6. 主クラッチレバーがスムーズに動くことを確認します。スムーズに動かない場合、お買いあげ販売店またはサービス店にて整備してください。

エンジンのかけかた

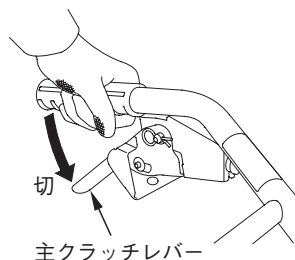
⚠ 警告

- 排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内でエンジンを始動するときは換気に十分注意してください。ガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。転倒などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 周りで作業をしている人がいたら周りの人に合図をしてから、始動してください。本機とぶつかるなどでケガをするおそれがあります。
- マフラの排気方向に燃えやすいものがないか確認してから、始動してください。火災の原因になることがあります。
- 主クラッチレバーが“切”、変速レバーが“中立”になっていることを確認してからエンジンをかけてください。クラッチ、変速が入っていると急発進などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

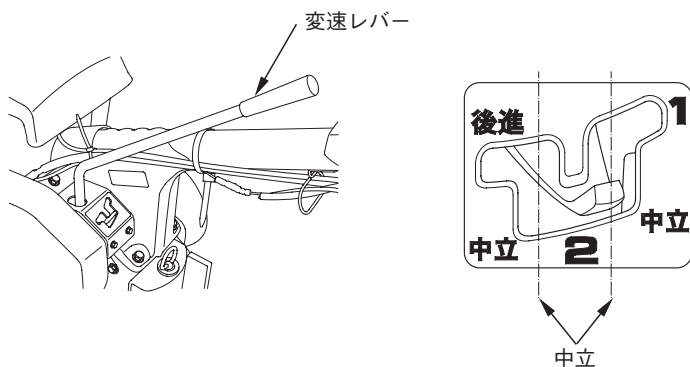
1. ドレンつまみが確実にしまっていることを確認し、燃料コックレバーを“出”の位置にします。



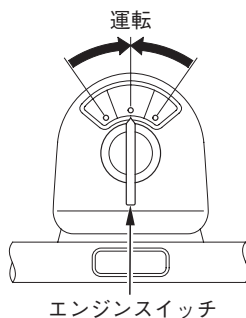
2. 主クラッチレバーが“切”になっていることを確認します。



3. 変速レバーが“中立”になっていることを確認します。



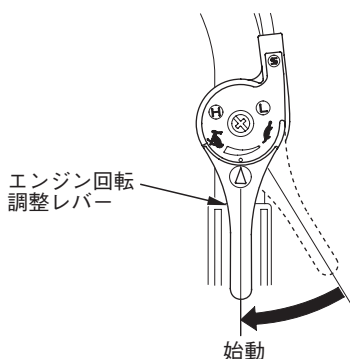
4. エンジンスイッチを“運転”の位置にします。



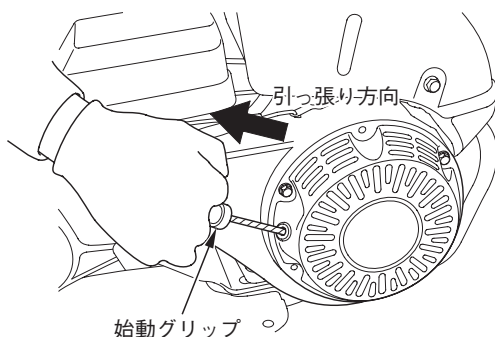
5. 寒いときやエンジンがかかりにくい場合には、チョークレバーを“始動”の位置にします。



6. エンジン回転調整レバーを
“始動”の位置に合わせます。



7. 始動グリップを静かに引いて、重くなるところで止めます。次に矢印
の方向に強く引っ張ります。



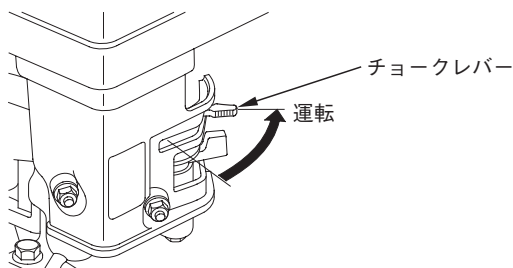
⚠ 注意

始動グリップを引くときは、引っ張る方向に人や障害物がないことを確認してから行ってください。ケガをするおそれがあります。

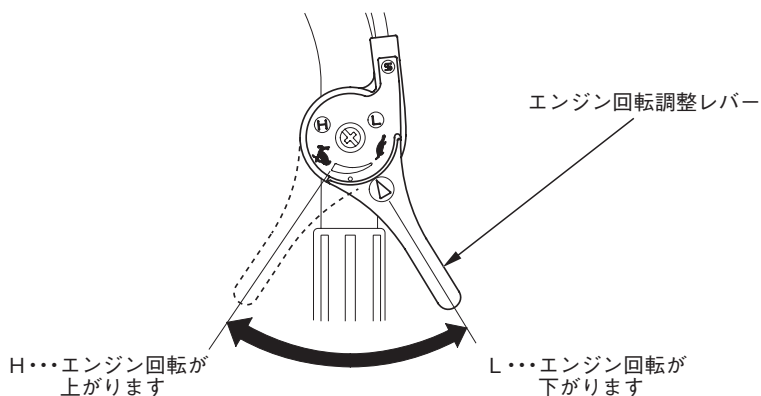
取扱いのポイント

- 始動グリップを引いたあと急に手を放さないでゆっくり戻してください。始動装置や周りの部品を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

8. エンジンが始動します。
9. 2～3分間暖機運転を行います。チョークレバーを“始動”にしたときは、エンジン回転が安定するのを確認しながら徐々に“運転”の方向に戻します。



エンジン回転は、作業に応じて調整してください。



運転操作のしかた

安全な作業を行うために、作業をする前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目をよくお読みになり十分に理解して行ってください。

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお問い合わせください。

変速

変速レバー

作業の状況に合せ適切な変速位置を選びます。(42頁参照)速度が早すぎても、遅すぎても運転の疲労、作業能率、仕上がり等に弊害が出ます。

変速の要領

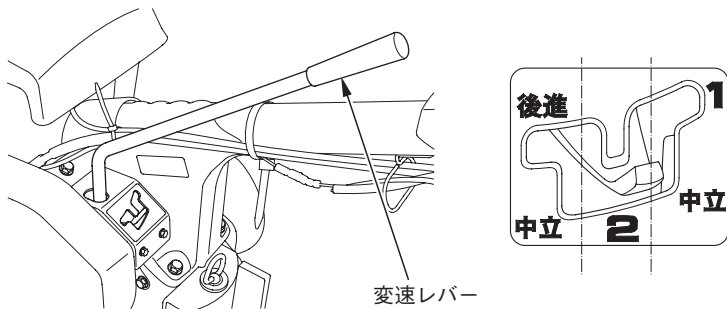
- 1) 変速レバーは、必ず主クラッチレバーを放してから操作します。
- 2) 変速レバーが変速しにくいときにはいったん主クラッチレバーを握った後主クラッチレバーを放してもう一度操作します。
- 3) 後進の場合、特に足元や後方に十分注意し低速で運転してください。

⚠ 警告

後進時、ハンドルがはね上り爪(ロータ)にふれると死傷するおそれがあるので後進するときは次の指示に従ってください。

- 後方に人や障害物がないことを確認してください。
- エンジン回転を下げてください。
- ハンドルを両手で持って、しっかりささえてください。
- 主クラッチはゆっくりつなぎ、いつでも切れるようにしてください。
- 傾斜地では変速レバーを中立にしないでください。中立にすると駆動力が切れ、本機が思わぬ動きをすることがあります。

● 変速表



変速位置	車軸回転数 * 1	車速 (JAタイプのみ) * 2
1	71.7 rpm	1.24 m/sec
2	101.7 rpm	1.75 m/sec
後進	33.9 rpm	0.58 m/sec

* 1: エンジン回転数3,600 rpm時

* 2: タイヤ外径304 mm、エンジン回転数3,900 rpm
(無負荷最高回転数)の場合

運転

主クラッチレバー

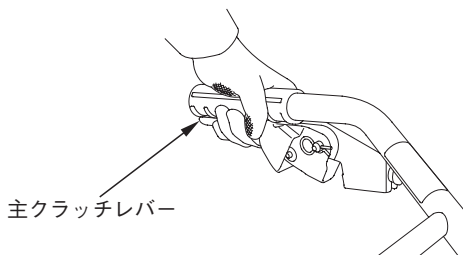
主クラッチレバーを操作することにより、本機の走行及び停止を行います。

⚠注意

本機の操作を行うときは、本機後方中央に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。バランスをくずし、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

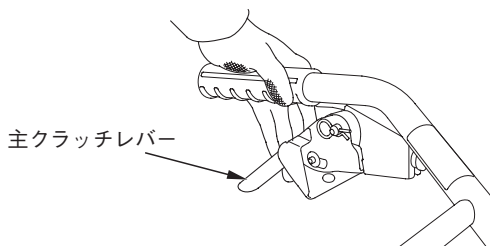
走行

主クラッチレバーを握る→クラッチがつながり、本機が走行します。



停止

主クラッチレバーを放す→クラッチが切れ、本機が停止します。

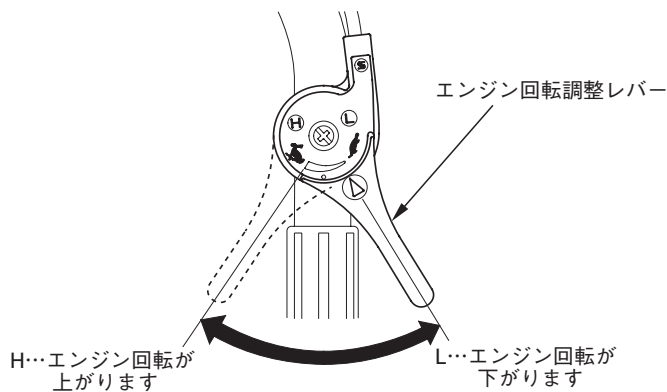


取扱いのポイント

主クラッチレバーの操作は、静か(スムーズ)に行ってください。急激な操作を行うと、機体が飛び出したり、エンジンが停止したりします。

エンジン回転調整レバー

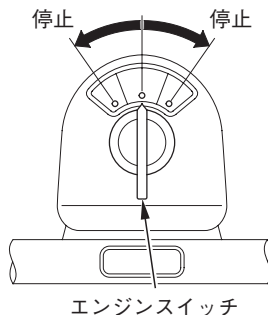
エンジンの回転数を作業に応じて調整してください。



エンジンのとめかた

緊急停止の場合

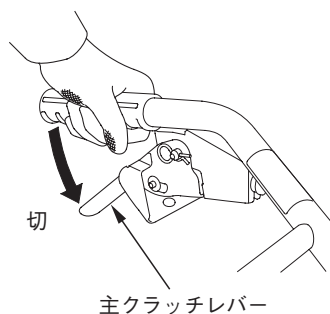
エンジンスイッチを“停止”に合わせます。



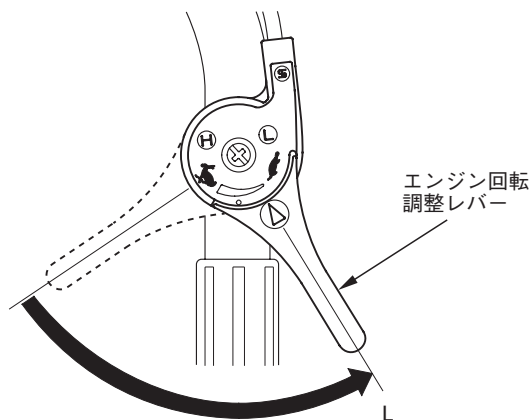
エンジンスイッチを使って本機を緊急停止させた場合は、再び始動する前に変速レバーを“中立”の位置にしてください。

通常停止の方法

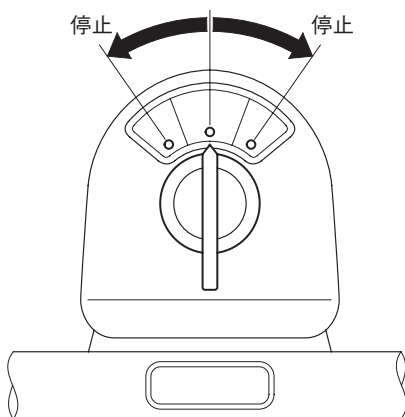
1. 主クラッチレバーを放して“切”にします。



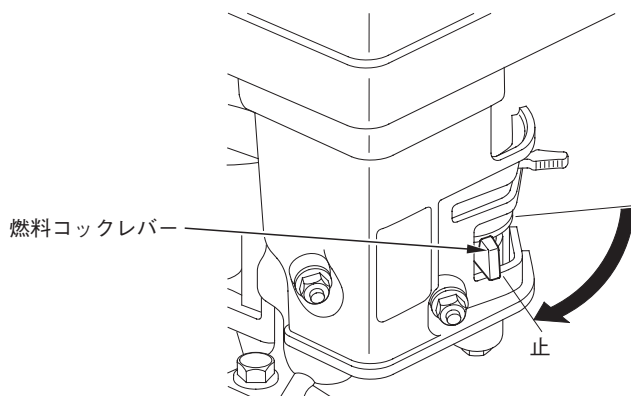
2. エンジン回転調整レバーを“L”の方向に戻し、エンジン回転を下げます。



3. 変速レバーを“中立”の位置にします。
4. エンジンスイッチを“停止”に合わせます。



5. 燃料コックレバーを“止”に合わせます。



定期点検を行いましょ

耕うん機を安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょ。

定期点検表

点検項目 \ 点検時期 (1)		稼働期前	作業前 点検	1ヶ月目 又は 初回20時 間運転毎	3ヶ月毎 又は 50時間 運転毎	6ヶ月毎 又は 100時間 運転毎	年1回 又は 300時間 運転毎	参照頁
エンジンオイル	点検、補給		○					25
	交換	○		○		○		49
エアクリーナ	点検		○					27
	清掃				○ (2)			51
	交換						○	51
本機周り	点検		○					22
レバー類の作動	点検		○					22
各部締め付け	点検		○					22
配線、ケーブル類	点検		○				○	22
エンジンの始動、停止	点検		○					22
タイヤ空気圧 (JAタイプのみ)	点検		○					29
泥水カバー (適用タイプのみ)	点検、清掃		○					30
主クラッチレバー の作動	点検、清掃		○					35
	グリス塗布	○ (3)(6)						—
主クラッチケーブル	点検、調整			○ (3)		○ (3)		—
駆動ベルト	点検、調整			○ (3)(5)		○ (3)(5)		—
変速機オイル	点検	○		○			○	28
燃料ろ過カップ	清掃					○		55
各部防錆、給油	塗布、給油	○ (3)						—
アイドル回転	点検、調整						○ (3)	—
点火プラグ	点検、調整					○		53
	交換						○	53
エンジン回転調整 ケーブル	清掃、調整						○	54
吸入、排気弁の すき間	点検、調整						○ (3)	—
燃焼室	清掃	500時間運転毎 (3) (4)						—
燃料タンク 及びフィルタ	清掃					○ (3)		—
燃料チューブ	点検	2年毎<必要なら交換> (3)						—

- (1) 点検時期は、表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
- (2) ホコリの多い所で使用した場合、エアクリーナの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。
- (3) 適切な工具と整備技術を必要としますので、販売店またはサービス店で実施いただく項目です。
- (4) 表示時間を経過後すみやかに実施してください。
- (5) ベルトに亀裂、異常摩耗が入っていない事を確認し、異常がある場合は交換してください。
- (6) 長期間(30日以上)保管する場合は、錆防止のため潤滑剤(グリース)を主クラッチ レバー周りの摺動部へ塗布してください。

点検・整備のしかた

作業を始める前に、作業内容を確認ください。ご自身で実施できない場合、お買いあげ販売店またはサービス店に相談ください。

⚠ 警告

点検、整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグキャップを外して行ってください。

エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

⚠ 注意

エンジン停止直後はエンジン本体やマフラなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

取扱いのポイント

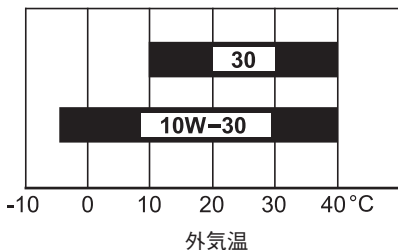
本機を横倒しにしないでください。ガソリンやオイルがこぼれたり、始動性が悪くなったり、始動後に白煙を発生したりすることがあります。

10 mmのレンチ類をご用意ください。レンチ類は装備されていません。

《推奨オイル》

Honda純正ウルトラU汎用 (SAE 10W-30)、またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。

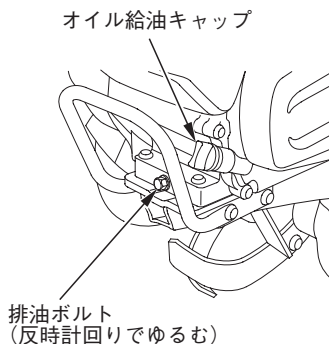
エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



《エンジンオイル量》 0.56 L

《交換のしかた》

1. 平坦な場所で本機を止めて、オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜き、適切な容器に受けます。
2. 排油ボルトをきれいに洗い、シリンダバレルに確実に締付けます。
3. 本機を水平にし(25頁参照)、注入口の口元まで新しいオイルを注入します。
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。



⚠ 注意

エンジン停止直後はエンジン本体やマフラなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

取扱いのポイント

- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。
- 必ずエンジンを水平にし、オイルを給油してください。
- 交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。

エアクリーナ(空気清浄器)の清掃・交換

エアクリーナ(空気清浄器)が目詰まりをすると出力不足になり、燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

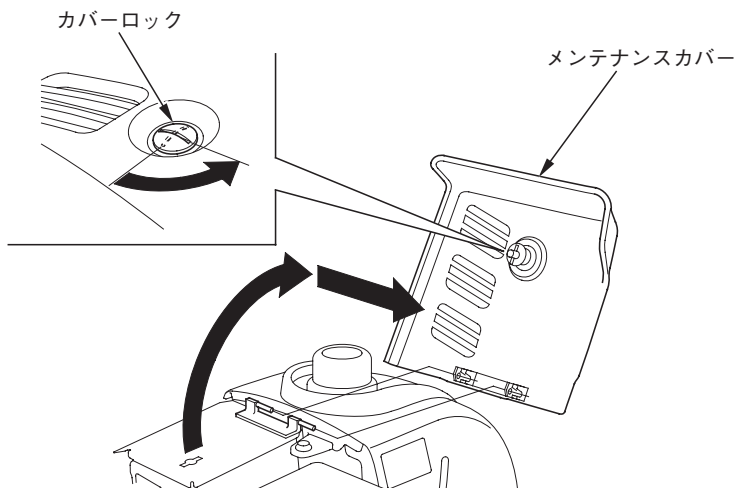
⚠ 警告

洗剤油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近づけないでください。火災を起こす可能性があります。

換気の良い場所で行ってください。

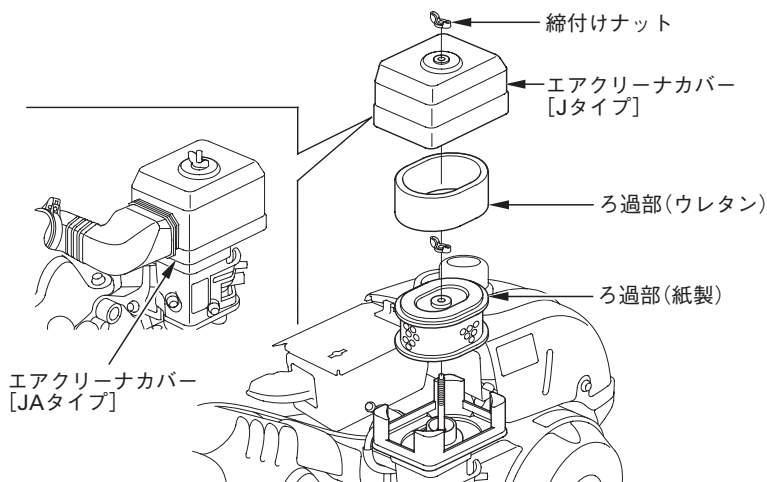
1. メンテナンスカバーを取外します。

メンテナンスカバーの取外しは、カバーロックを回し、メンテナンスカバーをあけた後、メンテナンスカバーを横にスライドさせることで行います。



2. 締付けナットを外し、図のようにエアクリーナカバーを外して、ろ過部を取外します。

JAタイプはエアクリーナカバーにエアダクトチューブが接続されています。カバーやエアダクトチューブを損傷させないように注意してください。



3. ろ過部(ウレタン)は洗い油または中性洗剤を水で薄めて洗い、よく絞って乾かします。オイルに浸した後、固く絞ってから取付けます。
4. ろ過部(紙製)は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。
5. ろ過部、エアクリーナカバーを確実に取付けます。
6. メンテナンスカバーを取付けた後、メンテナンスカバーを閉じ、カバーロックでロックします。

取扱いのポイント

- エアクリーナカバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エアクリーナカバーやろ過部(ウレタン)を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

点火プラグの点検・調整・交換

電極が汚れたり、火花すき間が不適當ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠注意

エンジン停止直後はマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

清掃のしかた

1. エンジンを停止し、メンテナンスカバーを開けた後点火プラグキャップを外します。
2. プラグレンチで点火プラグを外します。
3. 点火プラグを清掃します。

点火プラグの清掃はプラグクリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

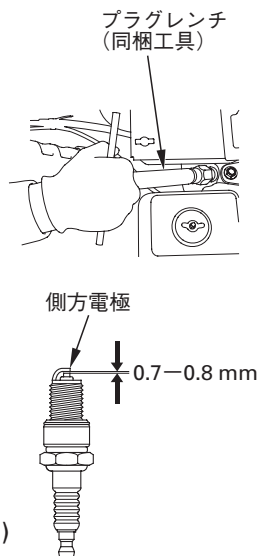
プラグクリーナが無いときは、針金かワイヤブラシで汚れを落としてください。

調整のしかた

4. 側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。

火花すき間：0.7－0.8 mm

《標準プラグ》 BP5ES (NGK) W16EP-U (DENSO)



取扱いのポイント

- 故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。
- 点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽く一杯までねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けてください。
- 点検・調整後は点火プラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

エンジン回転調整ケーブルの調整

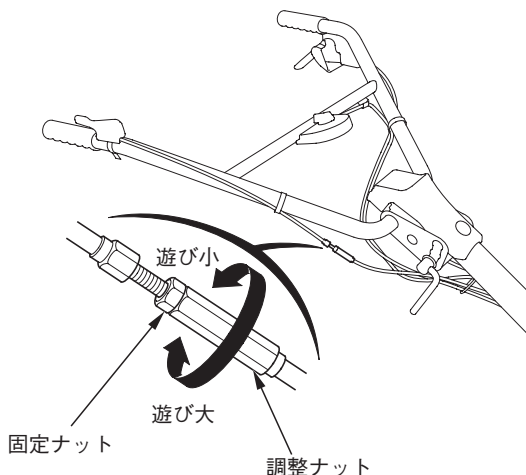
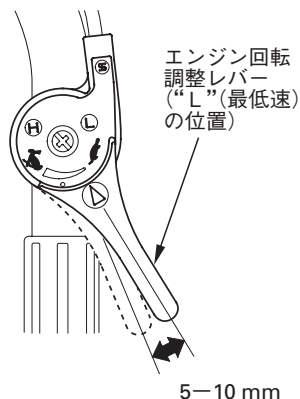
エンジン回転調整ケーブルの調整が完全でないと、エンジン不調の原因になることがあります。

調整のしかた

1. エンジン回転調整レバーを“L”の位置にします。レバーの遊びが先端部で下記寸法になるように調整します。

遊び：5－10 mm

2. 調整は、固定ナットをゆるめ調整ナットをまわして行ってください。
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。



燃料ろ過カップの清掃

燃料ろ過カップ内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。

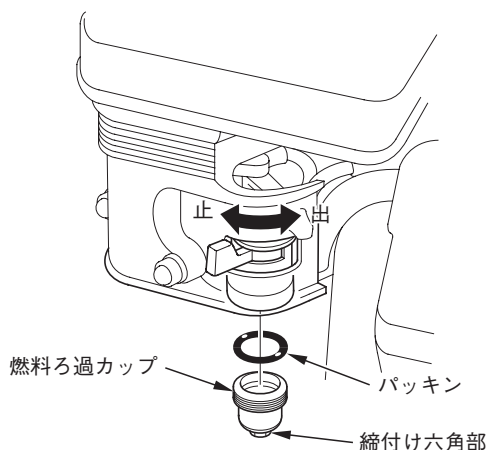
⚠ 警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

- ・火気を近づけないでください。
- ・燃料フィルタの取付け後、漏れがないか点検してください。
- ・ガソリンが周りに付いている場合は良くふき取り完全にかわかしからエンジンを始動してください。

《清掃のしかた》

1. 燃料コックレバーを“止”にします。
2. 六角部を回してゆるめ燃料ろ過カップを外します。
3. 燃料ろ過カップを洗い油でよく洗い、底にたまったゴミや水を取除きます。
4. 清掃後、パッキンを元どおりに取付け、燃料ろ過カップを取付けます。
5. 燃料ろ過カップは、六角部を回して確実に締付けてください。
6. 燃料コックレバーを“出”の位置にし燃料の漏れのないことを確認します。



長期間使用しないときの手入れ

長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレータ内の燃料を抜いてください。古くなった燃料は故障の原因となります。

エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐため点火プラグキャップをプラグから取外します。

⚠ 警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

ガソリンを抜くときは

- ・換気の良い場所で行ってください。
- ・火気を近づけないでください。
- ・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

1. 燃料タンク、キャブレータ内の燃料を下記の要領で抜きます。

《抜きかた》

- 1) 燃料コックレバーを“出”にします。
- 2) キャブレータのドレンつまみ(燃料排出用つまみ)を1~2回転ゆるめ、キャブレータと燃料タンク内の燃料を抜きます。燃料は適切な容器で受けてください。
- 3) 完全に燃料が抜けたらドレンつまみを確実にしめます。
- 4) 燃料コックレバーを“止”にします。



-
2. エアクリーナ(空気清浄器)を清掃します。(清掃方法は51、52 頁参照)
 3. 始動グリップを重くなるまで引きます。(エンジンバルブが閉じ燃焼室内にほこり等が入らない状態になります。)
 4. クラッチレバーを“切”にします。

取扱いのポイント

- 次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。
- 本機を水平の状態にして平坦で安定した場所で保管してください。ハンドルを地面に付けた状態で保管するとエンジンがかかりにくくなる場合があります。

故障のときは

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

始動しないときは次の点を確認しましょう

1. 始動方法は取扱説明書通りですか? (37～40頁参照)
 2. ガソリンはありますか? (23、24頁参照)
 3. エンジンオイルは注入口、口元までありますか? (25頁参照)
 4. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか? (53頁参照)
- 点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

少し時間をおいてもう一度確認しましょう

主要諸元

名	称	F402	
型	式	ホンダF402	
区	分	J	JA
機 体 寸 法	全 長	1,330 mm	1,340 mm
	全 幅	655 mm	600 mm
	全 高	975 mm	970 mm
全装備質量(重量)		47 kg	45 kg
エ ン ジ ン	名 称	GX120K1	
	形 式	空冷 4 ストローク単気筒(OHV)	
	総 排 気 量	118 cm ³	
	連続定格出力/回転速度	2.1 kW (2.9 PS)/3,600 rpm	
	最大出力/回転速度 (SAE J1349に準拠*)	2.6 kW (3.5 PS)/3,600 rpm	
	使 用 燃 料	無鉛レギュラーガソリン	
	燃料タンク容量	1.2 L	
	エンジンオイル容量	0.56 L	
	点 火 方 式	トランジスタマグネット点火式	
	始 動 方 式	リコイルスタータ	
ク ラ ッ チ 方 式		ベルトテンション	
変速	前 進	2 段	
段数	後 進	1 段	
安全鑑定適合番号		31095	

*ここに表示したエンジン出力はSAE J1349に準拠して3,600rpm(エンジン最大出力)で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。
完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

注意：諸元は予告なく変更することがあります。

同梱部品の組付け方

次の手順と要領で同梱部品を組付けてください。

なお、説明に使用しているイラストが一部実機と異なる場合がありますが、取付け手順と要領は同じですのでご了承ください。

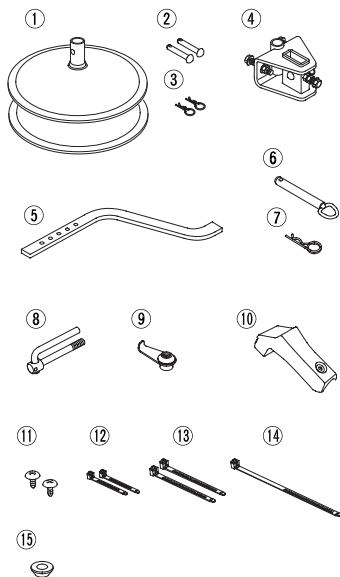
△注意

取付け作業は必ず手袋を着用して2人で行ってください。本機が転倒し思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。作業をする間、1人は本機が倒れないようにささえてください。

- ・ 梱包を開き、同梱部品、本機を取り出し、梱包材などの緩衝材の上に置きます。本機は平らな場所にフロントガードを下にし静かに置きます。
- ・ ハンドルと本機間のエンジンスイッチコード、スロットルケーブル、クラッチケーブルをむりに引っ張らないように注意してください。
- ・ 下記同梱部品リストで部品点数、及び損傷の有無を確認してください。

同梱部品リスト

No.	部 品 名	個 数	
		J	JA
①	側板	2	—
②	保持ピン (8×43)	2 *1	2
③	固定ピン (小)	2 *1	2
④	アタッチメントヒッチ	1	1
⑤	ドラッグバー (抵抗棒)	1	—
⑥	保持ピン (大)	1 *2	1 *2
⑦	固定ピン (大)	1 *2	1 *2
⑧	ハンドル高さ調整レバー	1	—
⑨	ハンドル支持板	1	—
⑩	ハンドルコラムカバー	1	—
⑪	スクリュー (5×12)	2	—
⑫	ケーブルバンド (小)	2	2
⑬	ケーブルバンド (中)	2	2
⑭	ケーブルバンド (大)	1	1
⑮	スペシャルナット	1	—

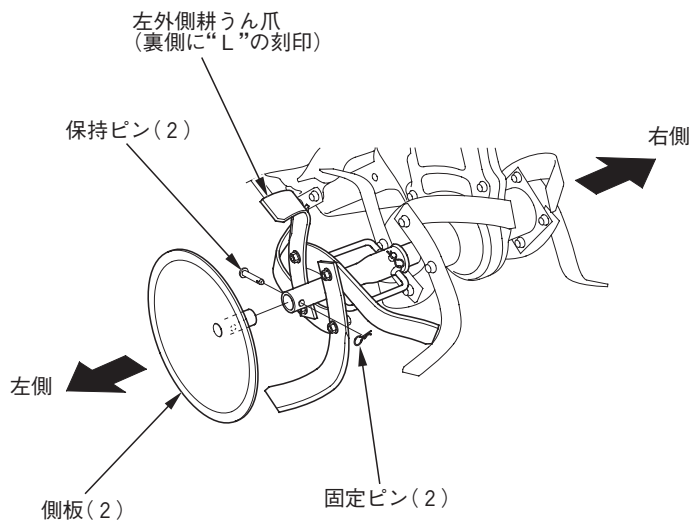


* 1 : 梱包に使用しているものを使用。

* 2 : 本機に取付けているものを使用。

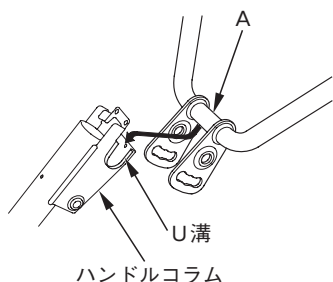
側板の取付け [Jタイプ]

側板を耕うん爪に組付けた後、ピン穴を合わせて保持ピンを取付け、固定ピンで固定します。

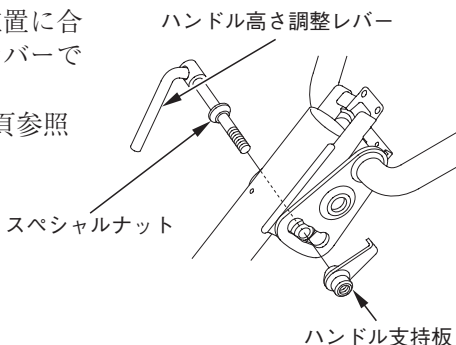


ハンドルの取付け [Jタイプ]

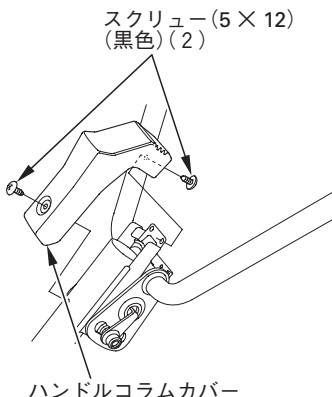
1. ハンドルコラムのU溝にハンドルのA部を合わせてセットします。



2. ハンドル支持板を“中”の位置に合わせ、ハンドル高さ調整レバーで確実に固定します。
・ハンドル高さの調整は31頁参照

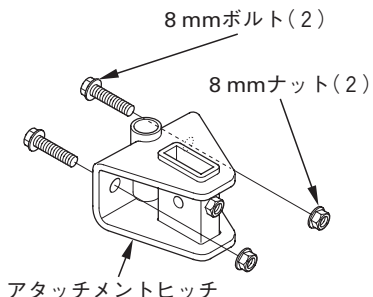


3. ハンドルコラムにハンドルコラムカバーを取付け、スクリュー(5×12)(黒色)で固定します。

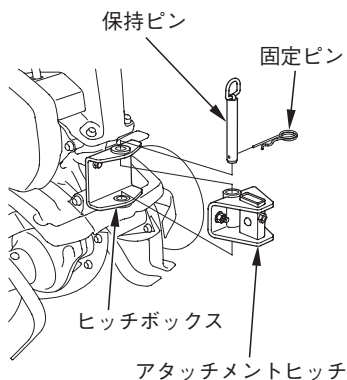


アタッチメントヒッチの取付け

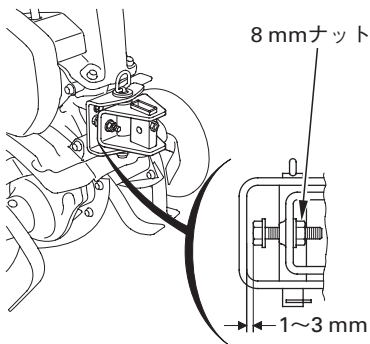
1. アタッチメントヒッチに8 mmボルトと8 mmナットを図の向きで組付けます。



2. アタッチメントヒッチをヒッチボックスに取付け、保持ピンを差込みます。

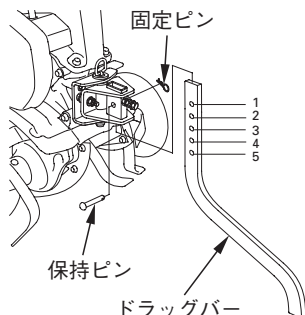


3. ヒッチボックスと8 mmボルトのすき間を左右1~3 mmになるよう8 mmボルトで調整し、8 mmナットを確実に締付けます。



ドラッグバーの取付け[Jタイプ]

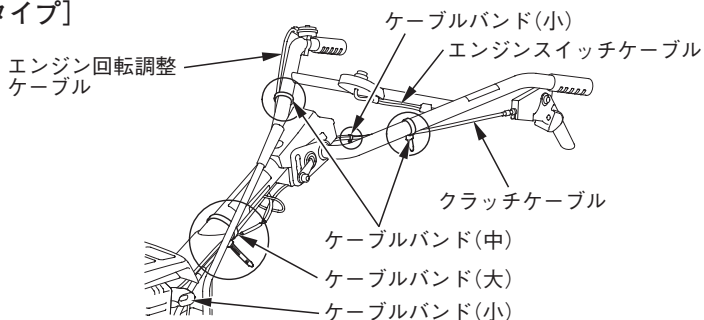
ヒッチボックスにドラッグバーを取付けた後、“3”のピン穴を合わせて保持ピンを差込み、固定ピンで固定します。



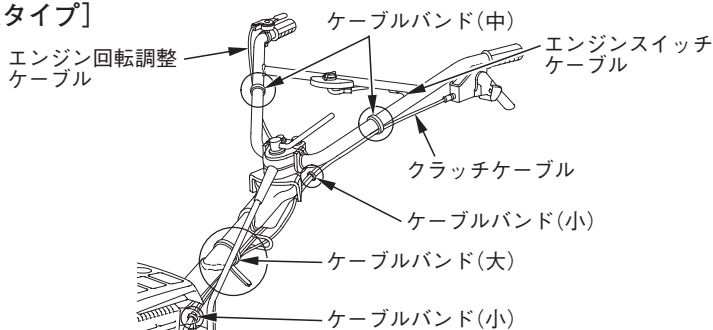
ケーブルバンドの取付け

1. ケーブルバンドでクラッチケーブル、エンジンスイッチワイヤ、スロットルケーブルを図の位置でハンドルに固定します。

[Jタイプ]



[JAタイプ]



Honda汎用製品についてのご相談・ご意見は、
まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

本田技研工業株式会社

お客様相談センター

全国共通フリーダイヤル

0120-112010

(受付時間 9:00~12:00

13:00~17:00)

この商品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

補修用部品についてのお問い合わせは、お買いあげいただいた販売店へお申しつけください。

